

# 福島第一原子力発電所の状況

平成 26 年 5 月 9 日  
東京電力株式会社

## < 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (5/9 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉圧力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 2.0 m <sup>3</sup> /h	20.2	102.8 kPa abs	A系： 0.00 vol%
		給水系：約 2.5 m <sup>3</sup> /h			B系： 0.00 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 2.5 m <sup>3</sup> /h	29.8	5.46 kPa g	A系： 0.04 Vol%
		給水系：約 1.7 m <sup>3</sup> /h			B系： 0.03 Vol%
3号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 2.4 m <sup>3</sup> /h	26.9	0.23 kPa g	A系： 0.05 Vol%
		給水系：約 2.0 m <sup>3</sup> /h			B系： 0.05 Vol%

\*：絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

### [5号機]

・H26/5/9 5号機は残留熱除去系原子炉停止時冷却モード(B系)にて原子炉水を冷却中であるが、原子炉保護系 機器の電気品点検に伴う同系統の電源切替を行うため、10:04～11:24 の間停止。冷却再開後の運転状態については異常なし。なお、5号機原子炉水温度は 32.9 から 33.1 に上昇したが、運転上の制限値 100 に対して余裕があり、原子炉水温度の管理上問題ない。

原子炉保護系：機器の動作不能、または操作員の誤動作等により原子炉の安全性をそこなうおそれのある過渡状態が生じた場合、あるいは予想がされる場合、原子炉をすみやかに緊急停止(スクラム)させる装置。

## < 2. 使用済燃料プールの状況 > (5/9 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	20.5
2号機	循環冷却システム	運転中	18.3
3号機	循環冷却システム	停止中	16.8 *
4号機	循環冷却システム	運転中	20.2

各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘイドラジンの注入を適宜実施。

\* 3号機使用済燃料プール冷却系停止中のため、使用済燃料プール水温については至近のデータ(5/8 5:00)を記載。

### [2号機]

・H26/5/12～ 使用済燃料プール循環冷却設備について、遠隔監視装置の監視性能向上対策を行うため、5/12 6:00 から約 57 時間停止する予定。なお、使用済燃料プール水温は 5/9 11:00 現在で 18.3 であり、冷却停止時のプール水温度上昇率評価値は約 0.156 /h で、停止中のプール水温上昇は約 9 と評価されることから、運転上の制限値 65 に対して余裕があり、使用済燃料プール水温度の管理上問題ない。

### [3号機]

・H26/4/19～ 使用済燃料プール内瓦礫撤去作業のうち、燃料交換機本体撤去作業を実施。

4/23～ 使用済燃料プール循環冷却系については、使用済燃料プール内の燃料交換機本体撤去作業に伴い、4/23～6月上旬の間、原則毎週月曜日 7:00～土曜日 16:00 の間停止予定(停止時間は最長で 129 時間、毎週土曜日 16:00～月曜日 7:00 の間は運転予定)。また、水温は運転上の制限値 65 に十分な余裕を持った 45 を超えることがないよう、同冷却系停止前のプール水温度を 29 以下として管理する。

< 最新の作業実績 >

5/8 6:44 冷却系停止(停止時の温度:16.9 )

## < 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	3号機タービン建屋	5/1 10:10 ～ 移送実施中
3号機	3号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設(雑固体廃棄物減容 処理建屋[高温焼却炉建屋])	4/24 10:34 ～ 移送実施中

- ・H26/5/9 10:00～14:17 4号機使用済燃料プールから共用プールへの燃料移動作業において発生する構内用輸送容器(キャスク)内包水(4号機使用済燃料プール水)および構内用輸送容器(キャスク)内洗浄水については、沈降分離処理し、共用プール低電導度廃液受タンクで貯水しているが、そのタンクが満水レベルに達したことから、同タンクから集中廃棄物処理施設(高温焼却炉建屋)への移送を実施。

#### < 4. 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (5/9 11:00 時点)

設備	セシウム吸着装置	第二セシウム吸着装置(サリー)	除染装置	淡水化装置(逆浸透膜)	淡水化装置(蒸発濃縮)	多核種除去設備(ALPS)
運転状況	停止中	運転中 <sup>*1</sup>	停止中	水バランスをみて断続運転	水バランスをみて断続運転	ホット試験中 <sup>*2</sup>

\*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。

\*2 高性能容器(HIC)交換等を適宜実施。

#### < 5. その他 >

- ・H26/1/29～ 2号機海水配管トレンチ凍結止水工事における凍結管を設置するための削孔について、凍結管を設置するための削孔を実施中。削孔作業と並行して、3/27より挿入作業ができるようになった孔から順次、凍結管およびパッカー挿入の作業を開始。  
4/2 挿入が完了した凍結管について凍結を開始し、4/26に全17本の凍結管の挿入作業、そのうち13本のパッカー設置作業が終了したことから、4/28凍結管全17本の凍結運転を開始した。今後、1ヶ月程度で凍結の壁を造成していく予定であり(6月頃完了予定)、凍結状況については、測温管にて確認していく。
- ・H26/3/14 13:35～ 共用プール西側において、凍土遮水壁の実証試験(凍結試験)を開始。
- ・H26/5/8 16:18頃 増設多核種除去設備設置工事に従事していた作業員が体調不良であることを確認。ただちに入退域管理棟救急医療室にて医師の診察を受けたところ、緊急搬送の必要と判断し、同日16:58に救急車を要請。当該作業員に身体汚染は無い。その後、双葉消防によりドクターヘリを要請。
- ・H26/5/9 9:45頃 4号機海側エリアにおいて、遮水壁工事で使用している重機(200tクローラークレーン)の油圧ホースが損傷し、油が漏れいしていることを作業員が発見。油漏れいは元弁を閉めたことにより停止しており、漏れい油は約3m×約3mの範囲で溜まっている。油漏れい箇所から海までは約20mあり、鋼製遮水壁が設置されていることから、海への流出の可能性はない。また、同日10:20に双葉消防本部へ連絡。同日11:10に、本件は「危険物漏れい事故ではない」との判断を受けた。なお、漏れた油は吸着マットによる回収と中和剤散布を行い、油が染み込んだ土壌は回収を実施する。

#### [H4, H6エリアタンク周辺観測孔(周辺排水路含む)の状況、タンクパトロール結果関連]

##### < H4エリア周辺のサンプリング実績 >

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

##### < 福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績 >

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

##### < H6エリア周辺のサンプリング実績 >

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

#### [焼却工作建屋の水位・焼却工作建屋サブドレン水の分析結果]

##### < トピックス >

- ・H26/4/14～ 集中廃棄物処理施設4カ所(プロセス主建屋、高温焼却炉建屋、サイトバンカ建屋、焼却工作建屋)のうち、3カ所間において、通常使用していない以下の滞留水移送ラインに設置してある仮設ポンプ(4台)が運転中であり、焼却工作建屋地下1階の全域に滞留水が広がっていることが確認されたことから、常設水位計による常時監視ならびに、焼却工作建屋のサブドレン水の分析を強化中。

##### < 最新の水位 >

- ・各建屋内の滞留水の深さについて大きな変化は確認されていない。

[5/9 14:00 時点の各建屋水深]

焼却建屋: 深さ 19.1cm(4/14 移送停止後と比較し、1.5cm 増)

工作建屋: 深さ 5.3cm(4/14 移送停止後と比較し、0.3cm 増)

##### < 最新のサンプリング実績 >

- ・大きな変動は確認されていない。

**[タービン建屋東側の地下水調査 / 対策工事の実施状況]**

**< 地下水観測孔サンプリング実績 >**

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

**[地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績]**

**< 地下貯水槽サンプリング実績 >**

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

以上